

つるた町民ライブラリー

このコーナーでは、「ヒト・モノ・コト」を繋げるため、私（地域おこし協力隊：川口）が、鶴田町で活動する「人材＝人財」（個人・企業・団体）をピックアップして「よそ者」目線で人物像を掘り下げ、不定期でご紹介します！

「鶴田町の未来！ 足もとの一歩から」

VOL.2

商工会青年部長 下山 央あきらさん

今回は鶴田町商工会青年部長の下山央さんです。マルヤマイチ下山商店でプロパンガスの配送を生業にしている下山さんですが、商工会青年部部長や鶴田町バスケットボール協会の理事も兼任しているその人柄に触れてきました。

◆普段のお仕事を教えてください。

私はプロパンガスの配送を家業として、地域に根ざした商売を目指しています。オール電化もよいですが、ガスは電気より熱効率に優れているので暖房にもお勧めです。

◆商工会青年部について教えてください。

商工会は経営者の集まりで、青年部はその後継者による異業種交流のようなもので本体とは別に活動しています。僕は、青年部長を任されて現在二期目に入りましたが、今年からは、青森県商工会青年部連合会の理事も兼任しています。

昨年はコロナウィルスの影響で青年部主催のイベントは出来ませんでした。ただ、外出自粛で苦しむ飲食店を何とか応援したいということで、OBからアドバイスを頂き、部員とアイデアを出し合っ、「飲食店応援キャンペーン」の実施にこぎつけました。

◆飲食店応援キャンペーンの反応はどうでしたか。

手探りの部分もありましたが、飲食店からは好評をいただいています。内容は、飲食店で食事をする時、抽選で次回来店時に使える商品券500円分がその場で当たるというもので、リピーターを増やす試みでした。商工会青年部としても町全体でコロナ禍を乗り越えていきたいという想いのもと企画しましたので一定の成果が出てよかったです。



◆青年部の他の活動について教えてください。

既存の行事の運営や協力、新規企画などもしています。例えば、商店街のお祭りの『夕鶴祭り』では、主に準備・片付け・露店に参加しています。

また、青年部が主導する『ふえすてまる』は、前々回の青年部長のアイデアで始まり、昔のように温泉の前でビアガーデンをしてワイワイするような、賑わいのある風景を現代でも実現したいというのをテーマにしてい



△2019年の「ふえすてまる in つるた」のようすです。

内容としては、露店やフリーマーケット、ビアガーデンをやりながら、協賛事業者たちが持ち寄った品物を町民でオークションします。中でも毎年を目玉商品は渋谷畜産さんが提供してくれる豚一頭分の豚肉で、圧巻の量です。僕らとしては、早くコロナが落ち着いて再開したいと思っています。



◆バスケットに関わる活動について教えてください。

学生時代はバスケットをしていたのですが、その後10年くらいバスケットからは離れていたんです。自分の子供がバスケットを始めたのをきっかけにまたバスケットに関わるようになりました。最近では子供たちのミニバスの審判員のとりまとめもしています。審判不足がきっかけで始めましたが、最近では審判技術も向上してきたので、今年は上級審判の資格にもチャレンジしようと思っています。気がかりなのは、バスケットに限らず、メンバー不足で運動部の活動自体が難しくなっていることです。人数が足りなくて没収試合になったり、他の部活から助っ人的に人を借りてきたりと様々な対応が必要です。

◆町の今後について。

先ほどのお祭りや活気の話にしても子供たちの活動にしても、町が賑わい、若い人が増えて、子どもたちがまた町を盛り上げてくれたらいいなと思っています。そのために一町民としてできることから大人を巻き込んで盛り上げていきたいです。

編集後記

ご本人から出る言葉は控えめですが、責任感が強く皆に頼られる人で、町を賑やかにしたいという想いは確かなものでした。

下山さんは「仕事以外の活動は基本的にボランティア。正直仕事の他に活動するのは大変だけど、皆さんや自分の子どもが楽しんでいるのを見るとやりがいを感じる」と仰っていました。

楽しいイベントの裏で、皆が楽しめるように時間を使い準備する裏方がいるというのは当たり前のように大変な労力を要します。子どもたちや親世代にも下山さんのような存在を知ってほしいし、我々も含めて地域全体で活動を応援する意識が必要なのだと思います。次回もお楽しみに！